

みどりの風

2025

8

令和7年

今月の表紙「夕陽の棚田」(撮影：木下 保之 様)

第13回 未来に伝えたい農業・農村の風景フォトコンテスト入選作品

CONTENTS

- 県内3ヶ所で「農政推進大会」を開催
- 食料・農業・農村基本計画が閣議決定される
- 小泉進次郎衆議院議員が農林水産大臣に就任
- 参議院議員 藤木しんや氏コラム
- 参議院議員 山田としお氏コラム(最終回)
- 農政連総支部だより(熊本市)
- 中央会・連合会からのお知らせ



あぜみち

厚生労働省が5月、出産にかかる費用の自己負担を無償化する方針を決めた。早ければ令和8年度からの実現を目指す。少子化に歯止めがかからない中、地域によって自己負担にばらつきがある状況を解消し、全国どこに住んでいても家計を気にせず出産できるようにする。

現在、帝王切開は保険適用となっているが、正常分娩は保険適用の対象外となっている。医療機関が自由に価格を設定することができる。出産費用は都市部ほど高い傾向にある。出産費用の全国平均は約51万円、最高は東京都の約64万円、最低は熊本の約40万円となっている。約20万円の差がある。

現在の仕組みでは、加入する健康保険組合等から妊婦側に「出産育児一時金」として50万円が支払われるが、地域によっては自己負担が生じる。具体的な制度設計はこれからだが、保険適用を行う案や出産育児一時金を増額する案などが検討されている。出産費用の無償化で少子化が改善されれば良いが、これだけの施策で少子化に歯止めがかかるとは思えない。5月のことものに発表された15歳未満の子供の数は4月1日現在で1、336万人と、昨年より35万人減って、44年連続での減少となった。

一方、農業者に目を向けると、熊本県の農家戸数は10年前と比べ、1・9万戸減少し、基幹的農業従事者も2・1万人の減少となっている。歯止めがかからないのが現状だ。スマート農業を掲げるが、機械や施設は費用が高額化し、今の補助制度では二の足を踏む後継者は多い。政府には抜本的な見直しを求めたい。

県内3ヶ所で「農政推進大会」を開催

農政連の各総支部と連合会・関連団体は、6月6日天草地区、県南地区、県北地区の3ヶ所で「農政推進大会」を開催し、農政推進の意義と東野ひでき全国農政連顧問や馬場成志参議院議員への支援強化を確認しました。

農業をめぐる情勢は、農畜産物の価格転嫁に対する国民の理解醸成も難しく、燃油・資材等の価格高騰など農業者個人の努力だけでは解決できない構造的課題を抱えています。その対策として農政活動を活発化し、国政の場に農業者の声を届ける必要があることから、今回農政推進大会を開催しました。

各会場には、金子恭之衆議院議員や藤木しんや参議員議員、前川收自民党熊本県連会長や松田二郎幹事長ほか、各地区県議会議員が来賓として出席し、激励しました。

天草地区会場（JA本渡五和、JAあまくさ、JAれいほく）はJA本渡五和本所で、JA役員、生産部会、青壮年部、女性部など約160名が、県南地区会場（JA熊本うき、JAやつしろ、JAあしきた、JAくま）は、八代市鏡文化センターで約200名が、県北会場（JA熊本市、JAたまな、JA大浜、JA鹿本、JA菊池、JA阿蘇、JAかみましき、中央会・連合会・関連団体）は、熊本市の県立劇場で約400名が参加しました。主催者を代表して、宮本隆幸農政連委員長は「米の価格高騰が

連日報道されており、食料安全保障の強化が待ったなしの状況だ。石破政権の支持率も自民党の支持率も低く逆風となっているが、農業者やJAの声を国政に届けるためには、農政連の意識を盟友等に広げていかなければならない」と挨拶しました。

国政報告では、馬場成志参議院議員が「我が国の農業にとって



▲農政推進大会で挨拶を行う農政連の宮本隆幸委員長



▲天草地区で農政への思いを熱く語る東野ひでき氏

専業農家出身の北の東野ひでき、西の藤木しんやや欠くことのできない人材だ」とエールを送りました。

東野ひでき農政連顧問は、「今、農業が大きく揺れている。食料・農業・農村基本計画が閣議決定され、食料安全保障の看板の本気度が試されている。農業を守るだけでなく、国民を守る覚悟。歯を食いしばって頑張る担い手の声を国に届けたら、い。こと語り農政への強い



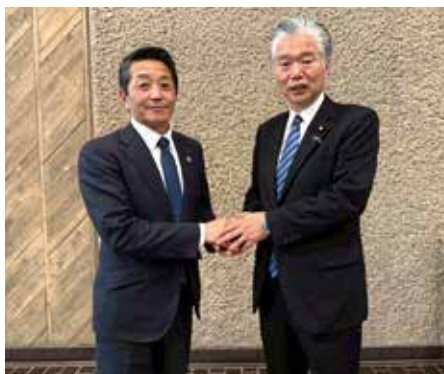
▲農政への思いを熱く語る東野ひでき氏



▲県南地区農政推進大会でのガンバロウ三唱の様子

い決意を訴えました。

最後に、各地区青壮年部と女性部によるガンバロウ三唱で氣勢を上げました。



▲推進大会で東野ひでき氏と馬場成志参議院議員ががっちりと握手



▲県北地区での農政推進大会の様子

食料・農業・農村基本計画が閣議決定される

政府は、今後5年間の農業政策の方向性を定める新たな食料・農業・農村基本計画を閣議決定しました。農業者の急減など、生産基盤が弱体化する中、今後5年間で農業の構造転換を集中的に進め、食料安全保障の確立を目指します。

新たな基本計画は、昨年6月に施行された改正食料・農業・農村基本法下で作る初の基本計画です。

今回の基本計画は、昨年成立した改正基本法で定める基本理念（食料安全保障の確保、農業の持続的な発展、環境と調和のとれた食料システムの確立、多面的機能の発揮、農村の振興）の実現を図る観点から、次の5つのテーマを設定しました。

- ① 我が国の食料保障
- ② 輸出の促進
- ③ 国民一人ひとりの食料安全・持続的な食料システム
- ④ 環境と調和のとれた食料システムの確立・多面的機能の発揮
- ⑤ 農村の振興

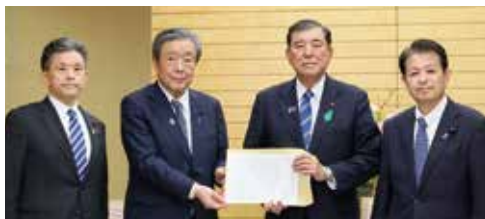
これまで基本計画で定める目標は食料自給率だけでしたが、国内の食料安全保障を取り巻く環境を多角的に分析するため、食料自給率以外の目標も設定しました。主なものとして、農業生産に欠かさない農地は令和6年比15万ha減の412万ha、農業者は49歳以下の担い手を現状の4・8万人確保することを目指します。農林水産物・食品の輸出額は、現行の5兆円を維持し、米は令和6年の4・6万トンから35万トンに増やします。

目標年はこれまでの「10年先」から「5年先」に見直し、令和12年の目標を定めました。

目標は、政府が少なくとも年1回、達成状況などを調べることにしており、検証と改善を繰り返し、計画の実行性を高めます。

自民党が基本計画に関する決議を申し入れ、基本計画の閣議決定を受け、自民党食料安全保障強化本部の森山裕本部長（党幹事長）、宮下一郎総合農林政策調査会長、上月良祐農林部会長らは、首相官邸を訪ね、新たな食料・農業・農村基本計画に関する決議を石

破茂首相に申し入れました。初動5年間で、農業予算の大幅な拡充を政府に念押しする内容となっています。既存予算とは「別枠」で思いきった規模の予算を確保すべきとして、首相の後押しを求めました。



▲石破茂首相に決議を手渡す自民党食料安全保障強化本部の森山裕本部長ら

食料・農業・農村基本計画の閣議決定にあたって

江藤拓農林水産大臣は、基本計画の閣議決定に当たって「日本の農政は大転換が求められている。生産基盤の強化、食料自給率・食料自給力の向上を通じ、食料安全保障を確保し、様々な環境の変化に

応するため、これまでの殻を破る大胆な農政転換を行う」と述べました。

生産数量目標 (単位:万t)

| | 2023年 | 2030年 |
|------|-------|-------|
| 米 | 791 | 818 |
| 小麦 | 109 | 137 |
| 大豆 | 26 | 39 |
| 野菜 | 1,087 | 1,201 |
| 果樹 | 245 | 256 |
| 牛肉 | 35 | 36 |
| 豚肉 | 91 | 92 |
| 生乳 | 732 | 732 |
| 飼料作物 | 336 | 409 |

※牛肉・豚肉は部分肉ベース

次期食料・農業・農村基本計画案に示された主な目標・KPI (指標)

| | 現状 | 2030年 | |
|-----------|--------------|--------|--------|
| 食料自給率 | 供給力0リーベース | 38% | 45% |
| | 生産額ベース | 61% | 69% |
| | 摂取力0リーベース | 45% | 53% |
| | 飼料自給率 | 27% | 28% |
| 担い手・農地の確保 | 49歳以下の担い手 | 4.8万人 | 4.8万人 |
| | 農地面積 | 427万ha | 412万ha |
| 肥料の安定供給 | リンの国内資源利用割合 | 25% | 40% |
| 輸 出 | 農林水産物・食品の輸出額 | 1.5兆円 | 5兆円 |
| | 米の輸出量 | 4.5万t | 35万t |

小泉進次郎衆議院議員が農林水産大臣に就任

石破内閣は5月22日、江藤拓農林水産大臣の辞任を受け、新たな農林水産大臣に、自民党の小泉進次郎元環境大臣（衆議院神奈川11区、当選6回、44歳）が就任しました。小泉氏は石破内閣発足時に自民党選挙対策委員長に就任しましたが、昨年の衆議院選挙後に辞任しています。

小泉氏は平成27年自民党農林部会長に就任し、農業の規制改革や農協改革を主導しました。JAの自己改革を求めてJA側と激しい攻防を繰り返したことは記憶に新しいことと思います。

小泉農林水産大臣は、官邸で「食を支える皆さんが意欲を持って、農業をやりたいと思えるような環境をつくること」が重要だ」と述べました。また農業政策を巡って「消費者の理解と、生産者の私欲がしっかりと距離感が縮まるような関係が築ければ、前向きな方向に転換できるチャンスにできるのではないかと意気込みました。



▲新たに就任した小泉進次郎農林水産大臣 (右は石破茂総理大臣)

全国農政連推薦・農政連公認 参議院議員藤木しんやの

永田町でも「百姓宣言」

【農畜産物適正価格法案が成立】

6月11日、参議院本会議が開催され、「食品等の流通の合理化及び取引の適正化に関する法律および卸売市場法の一部を改正する法律案（いわゆる農畜産物の適正な価格法案）」が可決され、法律が成立しました。

この法律は、食品等にかかる合理的な費用を考慮した価格形成の実現に向け、一定の規制措置を講ずるもので、今後、生産者が再生産可能となる所得の確保を持続的に実現するために、非常に重要な法律です。改正基本法に新たに盛り込まれた第23条「食料の持続的な供給に要する費用の考慮」に基づき、よつやく法律化となりました。

この間、法案を国会に提出するまでは、党内の農林関連会合で何度も議論してきました。私も何度も意見して参りました。国会審議では、6月5日の参議院農林水産委員会において、参事人（農水省検討会生産者委員1名、学者2名）に対する質問に立たせていただきました。今後、令和8年中の制度施行に向けて、省令やガイドライン等の検討が行われるとのことでした。

この仕組みの実効性確保には、制度設計も重要ですが、小売業者・消費者の理解が重要となります。そのためには、生産者・生産者団体による「自分たちの農畜産物を再生産可能



▲6月5日参議院農林水産委員会

な価格で販売する」という堅い決意と小売業者・消費者に対して理解を求め、地道な取り組みが重要となります。決して仕組みだけでは、適正な価格は実現しません。この仕組みが実効性あるものとなるため、私も精一杯尽力して参ります。

【自民党米政策関連会合で意見】

6月19日、自民党農業基本政策検討委員会が開催され、出席しました。会合では、農水省より米政策の推進状況について説明があった後、出席議員による意見交換が行われました。

私は、「農業現場の不安は相当大きい。今年の出来秋の生産者米価は最低でも2・3万円位は確保すると農林部会として現場に言えるようにすべき。また、備蓄米の買戻しは入札で売った時の価格（2・1万円程度）で買戻すと確保すべき。それくらい言わないと現場は収集がつかない。一言、強く意見致しました。」

会合では、大勢の出席議員から、需給緩和への懸念や十分な生産者米価の確保にかかる様々な意見が出されました。



▲6月19日自民党農業基本政策検討委員会

会合の最後に、宮下一郎・総合農林政策調査会長は、「仮に出来秋に暴落したら思いっきり買戻して需給を保つようにする。自民党農政は、米価の大暴落をさせるようなことは絶対しない。」旨、発言され、閉会しました。

私は、農林部会長代理として、出来秋に十分な生産者米価を確保できるよつやく、精一杯尽力して参りたいと思います。

全国・農政連推薦

参議院議員山田としおの

農政問題に斬り込む

長年にわたる「支援に心から感謝いたします（後編）」

3期18年にわたる私の参議院議員としての任期は、今年7月28日まで、目前に迫ってきました。この間、計3回の選挙で大変多くの方にお世話になり、これまで何とか国会議員としての務めを果たしてこられたのは、ひとえに皆さまの温かいご支援と励ましのおかげです。心から感謝申し上げます。

○JAグループへの期待

振り返れば、行き過ぎた競争至上主義や市場原理主義勢力との闘いに明け暮れた18年間の議員活動でした。私は、根っからの協同組合大好き人間であり、市場原理主義や新自由主義的な政策の導入には精一杯抵抗してきました。

農協についての理解を国会議員に広げるため、「参議院農業・農協研究会」を立ち上げたり、参議院自民党の有志と一緒に「新しい日本型資本主義を考える会」を結成し「まっとうな日本を考える」という提言を取りまとめ、当時の安倍総裁に提出したりしました。

しかし、いま私が若干懸念していることは、近年、協同組合であるJAが、地域に根ざした組織として、事業体の側面を強めていく一方で、運動体

として政治や社会運動への関心や関与が薄くなってきたのではないかと感じています。

今年は、国連が定めた2回目の「国際協同組合年」です。今後も、JAが地域の核となつて、「食」と「農」を守り、「地域」を発展させていく取り組みを「協同」の力で実践していかなければなりません。

7月には、参議院議員選挙が行われます。全国農政連・JAグループが自信を持って推薦した方に対し、私のときと同様に、皆さまの圧倒的なお力添えをお願いいたします。

本来であれば、熊本にお邪魔して、これまでご支援いただいた皆さんに、直接御礼を申し上げるべきところですが、紙面を通じてのご挨拶となります。皆さまのご多幸とあわせ、我が国農業とJAグループならびに農政運動組織のご発展を祈念し、御礼のご挨拶とさせていただきます。本当に有難うございました。



▲石破首相と

県下には十一の総支部がありこの活動状況を毎月順次紹介していきます。
 今回は、「熊本市総支部」（野原泰夫総支部長・JA熊本市組合長、大塚博信事務局長・JA熊本市管理部長）を紹介します。

熊本市総支部はJA熊本市の事業区域である熊本市（北区植木町、南区富合町、南区城南町を除く）を管轄とし、市街地を中心とする都市地域では花き、樹芸、野菜、水稻等、東部から北部にかけての畑台地域は施設園芸、畜産、水稻等、北西部を中心とする金峰山麓地域は柑橘等、南西部に位置する水田平坦地域は施設園芸、水稻等に区分され、「夢未来」ブランドのもと、各地域とも

「主な組合員組織と構成員数」

令和7年3月末

| 組織名 | 構成員数 | 組織名 | 構成員数 |
|----------|--------|-----------------|------|
| 1 園芸部会 | 628人 | 10 青壮年部 | 239人 |
| 2 普通作部会 | 672人 | 11 女性部 | 691人 |
| 3 花卉部会 | 15人 | 12 フレッシュミズ | 12人 |
| 4 樹芸部会 | 23人 | 13 ハイミセス会 | 107人 |
| 5 畜産部会 | 26人 | 14 助け合いの会 | 166人 |
| 6 果樹部会 | 343人 | 15 JA熊本市野菜ソムリエ会 | 16人 |
| 7 資産運用部会 | 51人 | 16 ふれあい青空市場部会 | 6人 |
| 8 青色申告会 | 1,616人 | 17 JA熊本市農産物直販部会 | 168人 |
| 9 法人部会 | 48社 | 18 JA熊本市営農組織協議会 | 12組合 |



▲JA熊本市本店で行った農政推進大会

その特性を生かした農業が営まれています。
 総支部の活動は新型コロナウイルスの流行で会議や大会等の実開催が困難となり、書面での意思表示等、時代に合わせた活動を行いながら国政選挙、県議会議員選挙、県知事選挙等への対応を行っております。
 盟友を構成する戸数は6,258戸、活動の取り纏めを行う事務局は管理部総務課に設置しています。



▲管内地域の清掃活動

組合員組織も幅広く展開しており、これらの代表者が農政連代議員、役員を担っています。特に女性部、青壮年部は選挙時のガンバロウ三唱や支部単位での候補者情報の浸透等の協力を頂いております。
 今回は青壮年部で例年行っている取組みをご紹介します。

①環境保全対策活動

青壮年部東部支部では例年7月に地域貢献活動の一環及び支店と青壮年部の協調を図ることを目的として管内周辺の環境保全活動を行っています。真夏の早朝から約2時間、皆で協力しながら道路周辺に捨てられている空き缶等のごみの回収と除草作業をしています。



▲熊本市へ要望を話す青壮年部

②熊本市長との対話集会
 地域農業の重要な担い手である青壮年部盟友がより良い農業者としての未来を描き、熊本市長や熊本市幹部職員との対話を通じて市政や農業政策への理解を深めると共に、若い農業者が抱える課題の提起や農業政策の要請等を行う目的で例年開催しています。対象が熊本市となるため、JA鹿本、JA熊本うきの青壮年部からも参加を頂きました。令和6年度の熊本市長との対話では「熊本市の農業の未来について」をテーマとし、米の輸出政策や雇用対策等について活発に意見を交わしました。
 また、同日に熊本市農水局幹部職員との意見交換会も実施し、補助事業や新規就農、有害鳥獣対策等について農業現場の実情を踏まえ、市政へ反映するよう訴えました。

第50回「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクールを開催

JAグループでは、心と体を支える食の大切さ、国産・地元農産物の豊かさ、それを生み出す農業の価値を伝えることで、国産・地元農産物と日本の農業への関心・理解を深めてもらう運動である「みんなのよい食プロジェクト」に取り組んでいます。その一環として、本年度も標記のコンクールを開催し、県内の小・中学生から作文と図画の作品を募集します。

ただき、特別賞のほか優秀賞など合計140作品が選ばれました。今年度の募集要領は6月中旬にかけて、県内全小・中学校へ送付・周知されています。また、JAグループ熊本の本ホームページにも情報が掲載されていますのでご覧ください。
(ホームページアドレス＝<https://www.ja-kumamoto.or.jp/study/concour/>)

昨年度は県内で作文の部979点(応募校数142校)、図画の部2,152点(応募校数202校)の応募がありました。小・中学校の先生方に審査をお願いし、厳正に受賞作品を選定してい



▲昨年度の審査風景(作文)



▲昨年度の審査風景(図画)

JA経済連

こども園で食育活動
生産量日本一のトマトやスイカを見て触れて味わって

JA熊本経済連は「食育月間」にあたる6月19日の「食育の日」、熊本市の五丁こども園で熊本県産農産物をテーマにした食育授業を行いました。3歳児から5歳児までの園児と先生、あわせて約70人が参加しました。

豊かな県産農産物について楽しく学び、おいしさや魅力、食へることの大切さを知ってもらうことが目的です。同連の職員が講師を務め、「くまもとのおいしい」「こやか」ってなんだろう」をテーマに、肉(に)、米(こ)、野菜(や)、果実(か)の頭文字を使って授業を行いました。日本一の生産量を誇るトマトやスイカなど、多くの農産物が生産されていることを、クイズを交えながら紹介しました。

子どもたちは、トマトやナス、スイカ、メロンなどを実際に手に取ったり、抱えたり、香りを嗅いだりと、五感を使って体験しながら理解を深めました。

スイカとメロンを試食した園児たちは、食べ終わるのがもったいない「いいにおいがする」と目を輝かせ、笑顔を見せていました。



▲野菜や果実を触る子ども達



▲クイズに答える子ども達

令和7年度 JA共済全国小・中学生書道コンクール および交通安全ポスターコンクールを開催します！

JA共済では、JA共済全国小・中学生書道・交通安全ポスターコンクールを開催します。今年で書道コンクールは69回目、交通安全ポスターコンクールは54回目を迎えます。当コンクールは地域貢献活動の一環として、小・中学生の書写教育ならびに美術教育の高揚を図るとともに、交通安全思想を広めることを目的として開催しています。

令和6年度の書道コンクールには、県下のべ681校の小・中学生の皆さんから24,306点、交通安全ポスターコンクールには、県下のべ217校の小・中学生の皆さんから1,433点の応募がありました。小・中学生の皆さん、ぜひこの夏に取り組んでみませんか。

熊本県大会で特別賞に輝いた作品は全国大会に出品されます。皆さんの努力と発想力に満ち溢れた作品をお待ちしております。

詳しくは、お近くのJA窓口もしくはJA共済の書道・交通安全ポスターコンクール特設ホームページをご確認ください。



JA共済 コンクール 検索

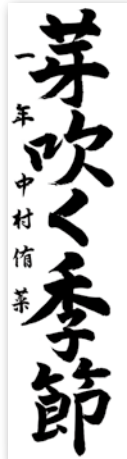
【令和6年度 熊本県知事賞作品】



▶宇土市立鶴城中学校3年(応募当時) 桑野 勇汰さん



▶宇城市立松橋中学校3年(応募当時) 沖田 琥珀さん



▶熊本市立白川中学校1年(応募当時) 中村 侑菜さん



▶八代市立委島小学校6年(応募当時) 三島 佳子さん

【令和6年度 農林水産大臣賞作品(全国大会)】

JA厚生連

睡眠について

私たちは人生の3分の1を睡眠に費やしていると言われています。睡眠には身体と脳のメンテナンスという重要な役割があり、睡眠中に成長ホルモンを分泌して疲れをとり、傷んだ部分の修復や、記憶の整理をするなどの役割があります。

しかし、睡眠不足の状態が続くと日常生活での疲れが蓄積し、体調を崩すことにもつながるため、理想的な睡眠時間を確保することや、睡眠の質を上げることがとても大切です。

【理想的な睡眠時間】

理想的な睡眠時間は個人差がありますが、一般的に成人の場合、6〜8時間が目安とされています。特に7時間前後の睡眠時間が、生活習慣病やうつ病のリスクを低くするという研究結果もあります。

【質の高い睡眠の習慣】

質の高い睡眠とは、心身ともにリフレッシュでき、日中を快適に過ごせる状態を指します。すなわち、必要な睡眠時間がとれており、睡眠中に何度も目を覚ますことなく、朝は気持ちよくスッキリ目覚められる睡眠のことです。その睡眠の質を高める習慣として、

- ・規則正しい生活を送る
- ・日中に適度な運動をする
- ・毎日、朝食をとる
- ・朝、起床後に日光を浴びる

- ・就寝2〜3時間前には入浴をすませるなどが挙げられます。

【睡眠の質を落とす習慣】

- ・就寝前の食事や激しい運動
- ・寝床に就く時間が不規則
- ・就寝前の飲酒、喫煙
- ・寝る直前のスマホやパソコン操作などが挙げられます。

【最後に】

睡眠不足は血圧や血糖値の上昇など生活習慣病のリスクが高くなるだけでなく、注意力・判断力の低下により作業効率の低下や事故につながる場合もあります。また、免疫力が低下し感染症にかかりやすくなります。

生活習慣病の予防のため、年に一度の定期健診を必ず受診しましょう。気になる症状がある場合は厚生連診療所にお気軽にご相談ください。



モンドセレクション2025

金賞受賞

MONDE SELECTION
EST. 1924
PROCESSED
GOLD
2025
Food Awards

熊本彩果
Strawberry Jelly

YAHOO! JAPAN
ショッピング
お買い求めはコチラ

JA熊本経済連

JAグループ熊本
**農機自動車
大展示会**
第61回

食料×農業×農村の未来を創造

7月25日・26日
9:00~17:00 9:00~16:30

場所 グランメッセ熊本

スタンプラリー開催
A 15
B 10
C 5
D 3
E 2
F 1

特典①
受付時にもらえる
抽選券5枚
特典②
熊本県産品200種
無料試食コーナー
抽選券5枚プレゼント

キッチンカーが
やって来る!!
無料日15:00まで

主催：熊本県下JA・JA 熊本経済連 協賛：熊本県 熊本県観光局

農業についての
さまざまな
「クエスチョン」を発信

JAグループ熊本

Do You? のうぎょう? のイェスチョ

KAB 熊本朝日放送にて
毎週金曜 夜7:54~放送中

備えは、なるべくお早めに。

建物更生共済 **むてきプラス** 建物更生共済 **My家財プラス**

資料請求は
こちら

くらしの保障、相談するなら

JA共済

※ご加入にあたりましては、お近くのJAへお問い合わせください。
■JA共済ホームページアドレス <https://www.ja-kyosai.or.jp>

25439990157

発行／熊本県農業者政治連盟

熊本市中中央区南十坂町1-3 電話 096-333-0680・1284

編集責任者／中村 隆宏

●発行日／令和7年7月15日・毎月1回15日発行

●定価／1部50円(但し会員の購読料は会費の中に含まれる)

老舗と新興企業という構図は、一丁の進展によつて大きく変わってきました。日本文化や伝統を守りそれを後世に伝える「老舗」と呼ばれる長期存続企業もまた不遇の時を乗り越えて生き残ってきました。老舗の明確な基準はありませんが、概ね100年以上存続している店舗をもって老舗と言っているようです。帝国データバンクの調査によれば、令和5年は約4万3千社以上が存在しているようです。

私は好きな和菓子の一つが羊羹ですが、「こらや」というお店を聞いたことはありませんか。虎屋は室町時代の創業で、京都で創業し代々京都の天皇家の御用を務めてきました。明治維新で東京遷都になったおかげで、天皇とともに東京に進出しました。今では、東京を代表する高級羊羹店となり、確固たるブランドを構築しました。

ところで、世界で最も古い企業は、寺社建築や文化財の復元を行う「金剛組」と言われており、創業は578年です。

「ひまわり学級 集団下校」



撮影：小嶋 幸喜 様
第13回 未来に伝えたい農業・農村の風景
フォトコンテスト入選作品

あ
と
が
き